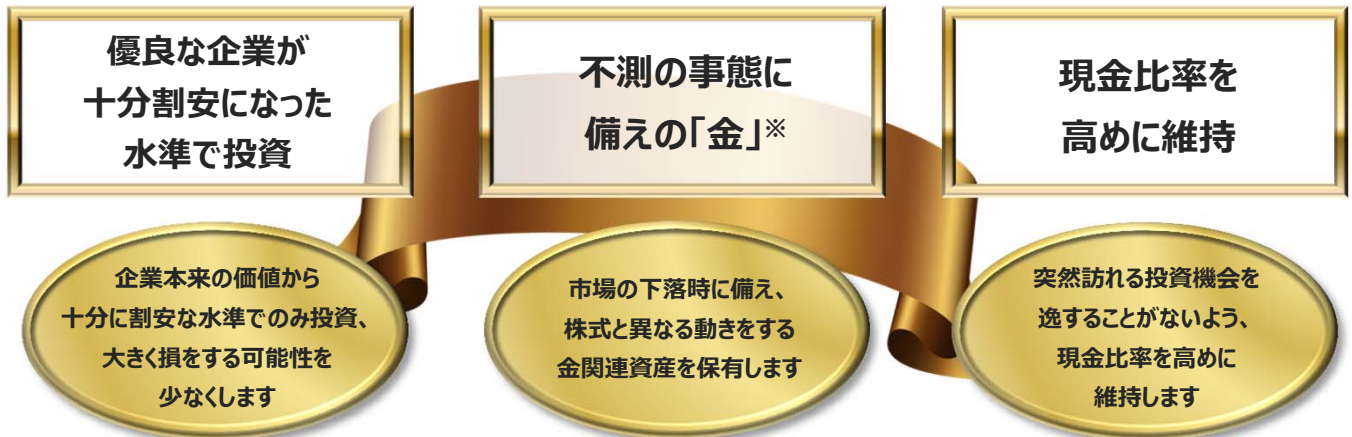




資産を減らさないという信念、 それが増やすことへの近道

35年を超える実績には納得できる哲学がある

主に割安と判断される世界の株式等に実質的に投資し、米ドルベースで相場環境にかかわらずプラスのリターンを追求することで、投資信託財産の中長期的な成長を目指します。



※「アムンディ・グローバル・ストラテジー株式ファンド 年2回決算型」および「アムンディ・グローバル・ストラテジー株式ファンド 毎月決算型」の主要投資対象ファンド「ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド（以下、ファースト・イーグル AIF）」では、金関連株式等に投資します。（金現物は含まれません。）

資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

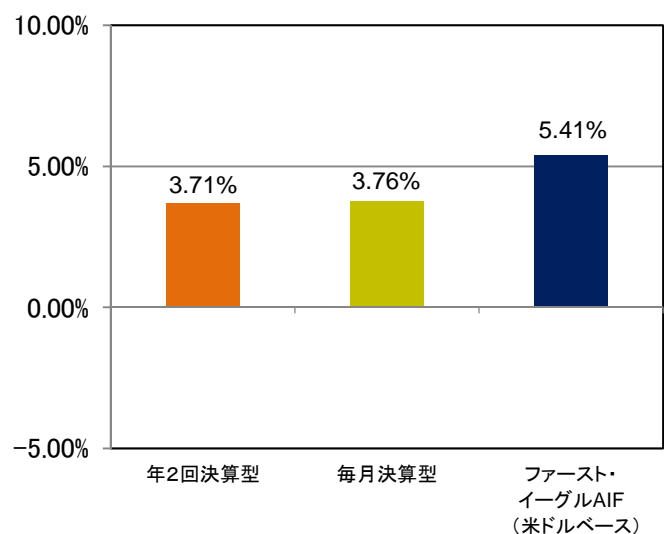
運用スタイルに合わせて選べる2コース 年2回決算型と毎月決算型

基準価額（税引前分配金再投資）の推移

（期間：設定日（2014年7月31日）から上記基準日まで、日次）



各コースの当月の月間騰落率



・基準価額（税引前分配金再投資）と騰落率は、税引前分配金を分配時に再投資したものとして計算しています。

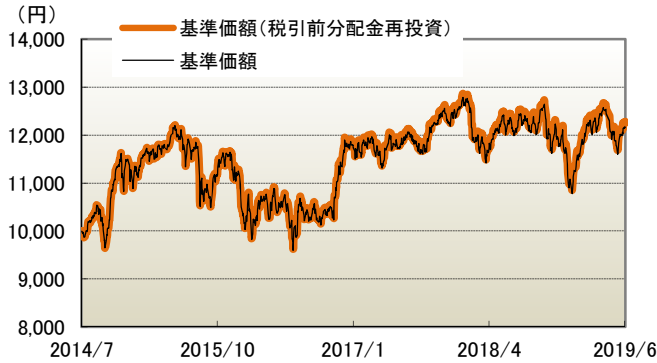
・基準価額は信託報酬控除後です。

・騰落率はファンドの騰落率であり、実際の投資家利回りと異なります。ファースト・イーグルAIFの騰落率の基準日は、「アムンディ・グローバル・ストラテジー株式ファンド 年2回決算型」および「アムンディ・グローバル・ストラテジー株式ファンド 毎月決算型」の基準価額に対応して1営業日前です。

2019年6月28日 現在

年2回決算型

基準価額の推移



※基準価額は信託報酬控除後です。基準価額(税引前分配金再投資)は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。信託報酬については、後記の「ファンドの費用」をご覧ください。
・上記は過去の実績であり、将来を示唆または保証するものではありません。

騰落率

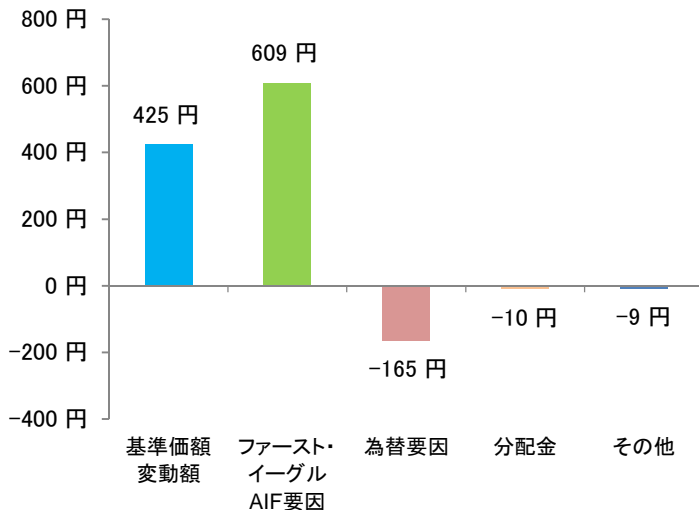
	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	3.71%	0.03%	9.92%	1.13%	22.62%	22.76%

・騰落率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。ファンドの騰落率であり、実際の投資家利回りとは異なります。
・上記は過去の実績であり、将来を示唆または保証するものではありません。

(ご参考) 基準価額の変動要因

期間	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
比較基準日	2019/5/31	2019/3/29	2018/12/28	2018/6/29	2016/6/30	2014/7/31
比較基準日の基準価額	11,746 円	12,178 円	11,082 円	12,056 円	9,976 円	10,000 円
比較基準日から当月末までの基準価額の変動額	425 円	-7 円	1,089 円	115 円	2,195 円	2,171 円
ファースト・イーグルAIF要因	609 円	371 円	1,478 円	497 円	2,116 円	2,256 円
為替要因	-165 円	-340 円	-326 円	-260 円	457 円	485 円
分配金	-10 円	-10 円	-10 円	-20 円	-60 円	-100 円
その他	-9 円	-28 円	-54 円	-102 円	-318 円	-470 円

< 当月の基準価額の変動要因 >



< 当月の変動要因(コメント) >

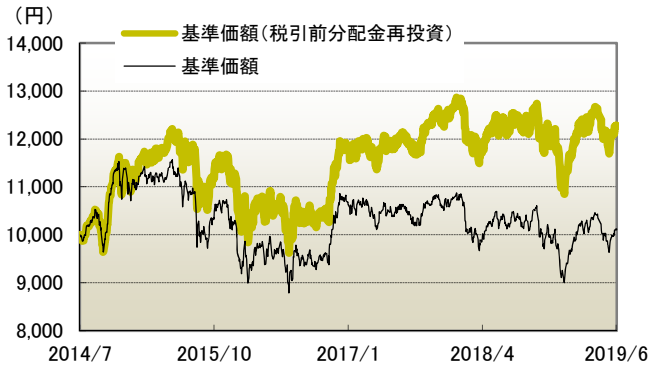
- 当月の基準価額変動におけるファースト・イーグルAIF要因(主に株式要因)はプラスの寄与となりました。内訳は米国株式のプラス寄与度が相対的に高くなりました。
- 当月の基準価額変動における為替要因は、円高・ドル安進行を受けてマイナス寄与となりました。

・基準価額は信託報酬控除後です。
・設定日の基準価額は当初設定価額です。
・その他要因は、信託報酬、その他の誤差を含みます。
・各要因の円未満は四捨五入している関係で、合計が一致しない場合があります。
・上記の変動要因は概算値であり、実際の基準価額の変動額を正確に説明するものではありません。
傾向を把握するための参考値としてご覧ください。

2019年6月28日 現在

毎月決算型

基準価額の推移



※基準価額は信託報酬控除後です。基準価額(税引前分配金再投資)は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。信託報酬については、後記の「ファンドの費用」をご覧ください。
・上記は過去の実績であり、将来を示唆または保証するものではありません。

騰落率

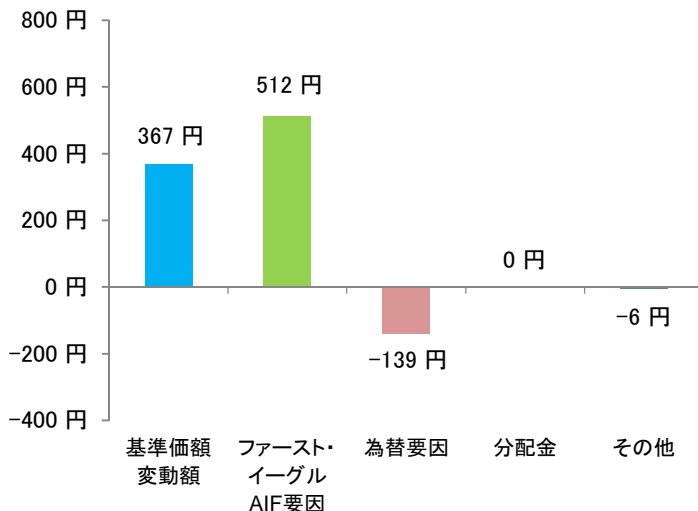
	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	3.76%	0.09%	9.99%	1.15%	22.68%	22.84%

・騰落率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。ファンドの騰落率であり、実際の投資家利回りとは異なります。
・上記は過去の実績であり、将来を示唆または保証するものではありません。

(ご参考) 基準価額の変動要因

期間	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
比較基準日	2019/5/31	2019/3/29	2018/12/28	2018/6/29	2016/6/30	2014/7/31
比較基準日の基準価額	9,758 円	10,155 円	9,259 円	10,176 円	9,142 円	10,000 円
比較基準日から当月末までの基準価額の変動額	367 円	-30 円	866 円	-51 円	983 円	125 円
ファースト・イーグルAIF要因	512 円	315 円	1,243 円	422 円	1,875 円	2,028 円
為替要因	-139 円	-283 円	-273 円	-220 円	457 円	599 円
分配金	0 円	-40 円	-60 円	-170 円	-1,080 円	-2,090 円
その他	-6 円	-22 円	-44 円	-82 円	-269 円	-412 円

< 当月の基準価額の変動要因 >



< 当月の変動要因(コメント) >

- 当月の基準価額変動におけるファースト・イーグルAIF要因(主に株式要因)はプラスの寄与となりました。内訳は米国株式のプラス寄与度が相対的に高くなりました。
- 当月の基準価額変動における為替要因は、円高・ドル安進行を受けてマイナス寄与となりました。

・基準価額は信託報酬控除後です。
・設定日の基準価額は当初設定価額です。
・その他要因は、信託報酬、その他の誤差を含みます。
・各要因の円未満は四捨五入している関係で、合計が一致しない場合があります。
・上記の変動要因は概算値であり、実際の基準価額の変動額を正確に説明するものではありません。
傾向を把握するための参考値としてご覧ください。

ファンドの概況

基準価額(円)	10,125
純資産総額(億円)	80.40
設定日	2014年7月31日
決算日	原則、毎月5日 (休日の場合は翌営業日)

内訳	比率
ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド	97.08%
CAマネープールファンド(適格機関投資家専用)	0.05%

分配実績(1万口当たり、税引前) 直近6期分

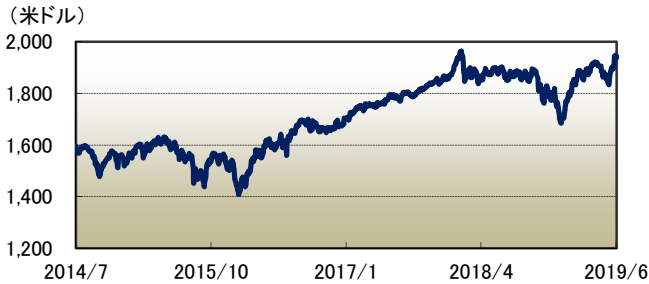
設定来累計		2,090円	
決算日	分配金	決算日	分配金
2019年1月7日	0円	2019年4月5日	20円
2019年2月5日	0円	2019年5月7日	20円
2019年3月5日	20円	2019年6月5日	0円

・分配金は過去の実績であり、将来を示唆または保証するものではありません。
・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

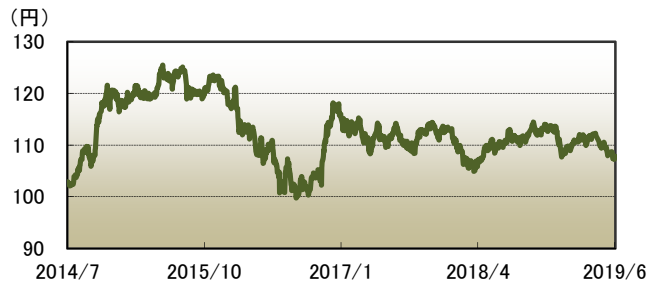
2019年6月28日 現在

「ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド」の運用状況

ファンド価格の推移



《ご参考》為替レートの推移（米ドル／円）



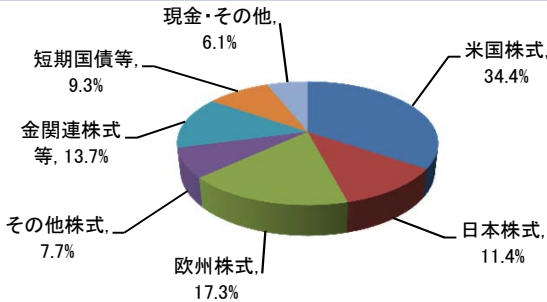
騰落率（米ドルベース）

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンド	5.41%	3.27%	14.08%	4.76%	20.96%	21.71%
MSCIワールド (参考指数)※	4.98%	4.07%	17.71%	6.24%	40.45%	37.07%

※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。

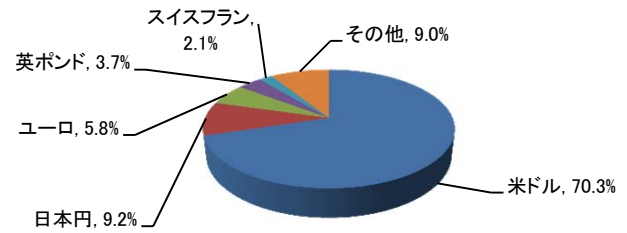
・ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドおよびMSCIワールドの騰落率の基準日は、「アムンディ・グローバル・ストラテジー株式ファンド 年2回決算型」および「アムンディ・グローバル・ストラテジー株式ファンド 毎月決算型」の基準価額に対応して1営業日前です。
・設定来の騰落率は、「アムンディ・グローバル・ストラテジー株式ファンド 年2回決算型」および「アムンディ・グローバル・ストラテジー株式ファンド 毎月決算型」が設定された2014年7月31日を基準としています。
・ファンド価格の推移および騰落率は、ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドの過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
・MSCIワールドはMSCI Inc.が開発した株価指数です。同指数に関する著作権、その他知的財産権はMSCI Inc.に帰属しております。

資産別比率



・比率は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
・比率は、ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドの純資産総額に対する評価金額の割合です。
・金ETCは金関連株式等に含まれます。
・上記データは、ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドの月末時点のデータです。

通貨別比率



・比率は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
・比率は、ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドの純資産総額に対する評価金額の割合です。
・上記データは、ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドの月末時点のデータです。

組入株式上位10銘柄

組入銘柄数：143銘柄

銘柄名	国名	比率	概要
1 ETFS Physical Gold	英国	7.41%	金ETC(Exchange Traded Commodity)。金の現物を担保とする上場債券。金現物取引価格との連動を目指す。
2 オラクル	米国	2.44%	米国カリフォルニア州に本拠を置く世界的なソフトウェア会社大手。データベース管理システムの開発、販売を行う。
3 コムキャスト	米国	2.00%	ケーブルテレビ事業会社。ビデオ、高速インターネット、電話サービスも手掛ける。個人および商工業顧客に、各種娯楽番組、情報・通信サービスを提供する。
4 エクソンモービル	米国	1.87%	世界最大級の石油・ガス会社。グローバルに石油および石油化学事業を展開する。
5 Xtrackers Physical Gold ETC	英国	1.82%	金ETC(Exchange Traded Commodity)。金の現物を担保とする上場債券。金現物取引価格との連動を目指す。
6 ファナック	日本	1.68%	FA商品、ロボット商品、ロボマシンの製造・販売・保守サービスが事業の柱で、FA、ロボット、ロボマシンの分野では、世界最大級のメーカー。
7 シュルンベルジェ	米国	1.59%	石油探査・油田サービス業。テクノロジー、プロジェクト管理、情報ソリューションなどのサービスを提供。高度な探査および調査データ処理も手掛ける。
8 ウェアハウザー	米国	1.46%	米国林業大手。米国内で最大級の森林を保有し、林業、木材加工、販売などを手掛ける。
9 ダノン	フランス	1.42%	世界的に事業を展開する食品会社。乳製品、飲料、医療用栄養補助食品などを製造・販売する。
10 KDDI	日本	1.32%	移動通信事業と固定通信事業の両方を併せ持つ、総合通信事業者。エネルギー関連や金融事業も展開する。

・比率は、ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドの純資産総額に対する評価金額の割合です。
・上記データは、ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドの月末時点のデータです。

2019年6月28日 現在

「ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド」 ファンド・マネージャーコメント

【市場動向】

6月のグローバル株式市場は上昇しました。米国によるメキシコへの追加関税が見送られたことや、FRB（米連邦準備理事会）やECB（欧州中央銀行）の金融緩和姿勢、また、米中通商交渉進展への期待などから堅調に推移しました。このような環境下、S&P500指数（配当込み）が当月5.05%の上昇、世界の先進国の株式市場の動きを示すMSCIワールド指数（配当込み）は同4.98%の上昇となりました（それぞれ米ドルベース）。

為替市場では、FRBによる早期利下げへの期待感の高まり等を受けて米ドルが売られ、米ドル／円レートは前月末比で円高・米ドル安となりました。商品市場では、原油価格（WTI先物）と金価格はともに上昇しました。米国の長期国債利回りは前月から低下（債券価格は上昇）、高利回り債市場は、代表的な指数であるクレディ・スイス・ハイイールド指数で1.85%上昇しました。

【運用状況】

ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンドの基準価額は、前月比5.41%の上昇（米ドルベース）となりました。国・地域別では米国のプラス寄与が相対的に高くなりました。セクター別では資本財・サービス、情報技術、エネルギーのプラス寄与が相対的に高くなりました。金関連資産もプラス寄与しました。当月の収益にプラスに貢献した保有銘柄は、金ETC、オラクル、シュルンベルジェなどでした。一方、マイナスの貢献となった保有銘柄は、ジャーディン・マセソン・ホールディングス、KDDI、シマノなどでした。

【今後の運用方針】

過去10年にわたる債務拡大は企業収益にとってプラス材料になったと考えられるものの、今後は拡大した債務が世界の経済成長にとって足かせになる可能性があると考えています。また、米国とイランとの緊張の高まりなど、地政学的な不透明さにも引き続き注意を要します。このように、不確実性が高まる投資環境において、引き続き規律ある慎重な運用を心掛けます。

私たちは、最も深刻な投資のリスクは投資元本の永続的な毀損であり、そのリスクの主たる源泉は割高な証券への投資であると考えます。私たちは、予期せぬ事態が生じて、回復不可能な損失を回避できるよう、十分に割安な水準で投資することを重視し、個別銘柄の株価が私たちの考える本源的価値を十分に下回る場合にのみ、投資します。十分に割安と判断できる投資機会に限られる局面では、無理に投資せずに現金等を保持します。現金等は個別銘柄単位で十分に割安と判断できる投資機会を特定した段階で、投資資金に充当するものと位置付けています。また、予期せぬリスクに対するヘッジ手段、及び中長期的に資産の実質的価値の維持を目指す手段として、金関連資産を一定比率保有し続ける方針です。

私たちは引き続き、短期的な市場動向や市場予測に頼るのではなく、ボトムアップによる銘柄選択を通じて競争力を持続できるような質の高い事業や希少な資産を有すると考えられる企業に分散投資することで、ドルベースで相場環境にかかわらずプラスのリターンを追求し、投資信託財産の長期的な成長を目指した運用を継続する方針です。

※各指数および価格等の基準日（「月末」を含む）は、「アムンディ・グローバル・ストラテジー株式ファンド 年2回決算型」および「アムンディ・グローバル・ストラテジー株式ファンド 毎月決算型」の基準価額に対応して1営業日前です。

ファンドの目的

ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式等へ実質的に投資を行い、投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

「アムンディ・グローバル・ストラテジー株式ファンド 年2回決算型」「アムンディ・グローバル・ストラテジー株式ファンド 毎月決算型」を、それぞれ「年2回決算型」、「毎月決算型」と略す場合があります。また2本のファンドを総称して「ファンド」、または個別に「各ファンド」という場合があります。

ファンドの特色

- ① 長期にわたり優れた運用実績がある「ファースト・イーグル・グローバル・ファンド(以下、類似ファンド)」と同じ運用手法の「ファースト・イーグル・アムンディ・インターナショナル・ファンド(以下、ファースト・イーグルAIF)」へ主に投資します。
 - 主として米ドル建のルクセンブルク籍の会社型投資信託「ファースト・イーグルAIF」と円建の国内籍の投資信託である「CAマネープールファンド(適格機関投資家専用)」に投資します。世界の株式等への投資は「ファースト・イーグルAIF」を通じて行います。
 - 「ファースト・イーグルAIF」の運用は、類似ファンド同様、米国の運用会社ファースト・イーグル・インベストメント・マネジメント社(以下、「ファースト・イーグル社」)。同社は200年以上の歴史を有する米国有数の独立系運用会社)のグローバル・バリュエーション・チームが行います[※]。

※ 類似ファンドは、運用資産残高の急増により2005年3月より新規申込みの受付を中止していましたが、2008年1月から再開しました。なお、類似ファンドは米国内の投資家専用のファンドです。ファースト・イーグルAIFも2004年2月より新規申込みの受付を中止していましたが、2008年8月から再開しました。

* ファンドも将来、運用資産残高の急増および市況環境の変化等により、新規申込みの受付を停止する場合があります。
- ② 主に割安と判断される世界の株式等に実質的に投資し、米ドルベースで相場環境にかかわらずプラスのリターンを追求することで、投資信託財産の中長期的な成長を目指します。
 - 世界各国(エマージング地域にも投資することがあります。)の株式を対象として、ボトムアップ方式により個別銘柄の調査を行い、PBR等の伝統的なバリュエーション分析のほか、様々な分析を加え、財務内容を徹底的に分析します。
 - 分析の結果、十分に割安で魅力的であると判断した銘柄でポートフォリオを構築します。
 - 特定の株価指数にとらわれない運用を行うため、ベンチマークを設定しておりません。
 - 投資先の「ファースト・イーグルAIF」において米ドルベースでのパフォーマンスを向上させるために、現地通貨売り／米ドル買いの為替取引を行うことがあります。
- ③ 年2回決算型と毎月決算型があります。
 - 年2回決算型は毎決算時(原則として毎年6月および12月の各5日。休業日の場合は翌営業日)、毎月決算型は毎決算時(原則として毎月5日。休業日の場合は翌営業日)に、原則として収益分配方針に基づき収益分配を行います。

◆資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。◆

投資リスク

ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式など値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクがあります。)に実質的に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではありません**。ファンドの基準価額の下落により、**損失を被り投資元本を割り込むことがあります**。ファンドの運用による損益はすべて投資者に帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。

基準価額の変動要因としては、価格変動リスク、流動性リスク、カントリーリスク、為替変動リスク、金利変動リスク、信用リスク等が挙げられます。なお、基準価額の変動要因(投資リスク)はこれらに限定されるものではありません。また、その他の留意点として、各ファンドの繰上償還等があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

《当資料のお取扱いについてのご注意》

■当資料は、法定目論見書の補足資料としてアムンディ・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、法令等に基づく開示資料ではありません。■当ファンドの購入のお申込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、お受取りの上、内容は投資信託説明書(交付目論見書)で必ずご確認ください。なお、投資に関する最終決定は、ご自身でご判断ください。■当資料は、弊社が信頼する情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性について弊社が保証するものではありません。また、記載されている内容は、予告なしに変更される場合があります。■当資料に記載されている事項につきましては、作成時点または過去の実績を示したものであり、将来の成果を保証するものではありません。また、運用成果は実際の投資家利回りとは異なります。■投資信託は、元本および分配金が保証されている商品ではありません。■投資信託は値動きのある証券等に投資します。組入れた証券等の値下がり、それらの発行者の信用状況の悪化等の影響による基準価額の下落により損失を被ることがあります。したがって、これら運用により投資信託に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属いたします。■投資信託は預金、保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関を通じてご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象とはなりません。■投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。

収益分配金に関する留意事項

●分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

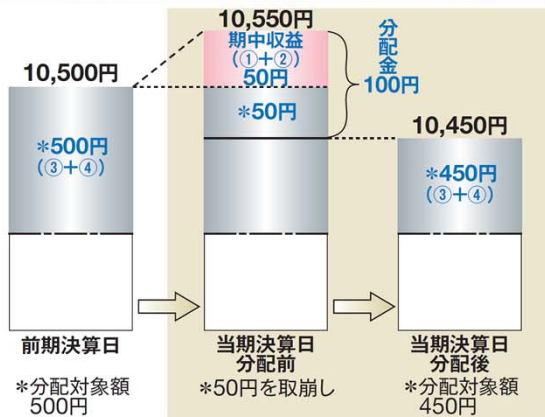
投資信託で分配金が支払われるイメージ



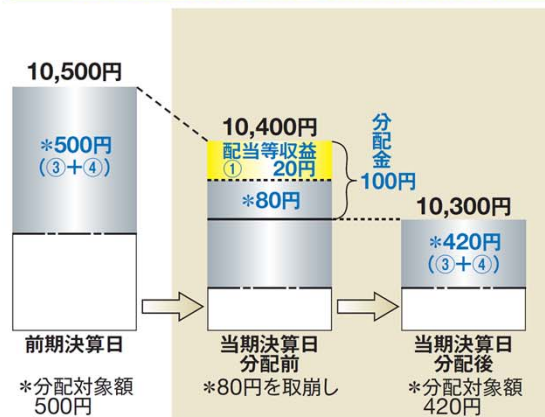
●分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

●投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は**非課税扱い**となります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

お申込みメモ

購入単位	一般コースと自動けいぞく投資コースがあります。（コース名称は販売会社により異なる場合があります。）各コースの購入単位は、販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	換金申込受付日より起算して、原則として7営業日目から販売会社においてお支払いします。
購入・換金申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークもしくはルクセンブルクの銀行休業日のいずれかに該当する場合、または12月24日である場合は受け付けません。
申込締切時間	詳しくは販売会社にお問合せください。
換金制限	換金の申込総額が多額な場合、投資信託財産の効率的な運用が妨げられると委託会社が合理的に判断する場合、諸事情により金融商品取引所等が閉鎖された場合等一定の場合に換金の制限がかかる場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金の申込受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金の申込受付を取消すことができます。
信託期間	2014年7月31日（設定日）から2025年6月5日までとします。
決算日	年2回決算型：年2回決算、原則毎年6月および12月の各5日です。休業日の場合は翌営業日とします。 毎月決算型：年12回決算、原則毎月5日です。休業日の場合は翌営業日とします。
収益分配	原則として毎決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。 自動けいぞく投資コースは税引後無手数料で再投資されます。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除および益金不算入制度は適用されません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が独自に定める料率を乗じて得た金額とします。有価証券届出書作成日現在の料率上限は、 3.24%（税抜3.0%） です。詳しくは販売会社にお問合せください。
信託財産留保額	ありません。

投資者が投資信託財産で間接的に負担する費用

信託報酬の総額は、投資信託財産の純資産総額に対し**年率0.8424%（税抜0.78%）**を乗じて得た金額とし、ファンドの計算期間を通じて毎日、費用計上されます。
（信託報酬の配分および実質的な負担上限）

		（年率）
ファンド	委託会社	0.25%（税抜）
	販売会社	0.50%（税抜）
	受託会社	0.03%（税抜）
投資対象とする投資信託証券	ファースト・イーグルAIF ^{※1}	1.00%（上限、有価証券届出書作成日現在）＋成功報酬
	CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）	0.378%（税抜0.35%） （上限、有価証券届出書作成日現在）
運用管理費用（信託報酬）	実質的な負担の上限 ^{※1 ※2}	1.8424%（税込）＋成功報酬

実際の信託報酬の合計額は投資対象とする投資信託証券の組入状況、運用状況によって変動します。

●「ファースト・イーグルAIF」の成功報酬について
成功報酬算定期間（毎年9月1日から翌年8月31日まで）において、「ファースト・イーグルAIF」の基準価額（当該日の成功報酬計算前）の収益率が、**3ヵ月米ドルLibor＋4%（年率）**を上回った場合に、**当該超過分に対して15%の成功報酬**がかかります。成功報酬は、日々計上（再計算）されます（値下がり場合は戻し入れされません）。

※1 成功報酬は運用状況によって変動するためその合計額は記載していません。
※2 ファンドの信託報酬率0.8424%（年率・税込）に組入投資信託証券のうち信託報酬が最大のもの（「ファースト・イーグルAIF」年率1.00%）を加算しております。
（支払方法）毎計算期間末または信託終了のときに、投資信託財産中から支弁します。
◆上記の運用管理費用（信託報酬）は、有価証券届出書作成日現在のものです。

その他の費用・手数料	その他の費用・手数料として下記の費用等が投資者の負担となり、ファンドから支払われます。 ・有価証券売買時の売買委託手数料および組入資産の保管費用などの諸費用 ・信託事務の処理等に要する諸費用（監査費用、目論見書・運用報告書等の印刷費用、有価証券届出書関連費用等を含みます。） ・投資信託財産に関する租税 等 ※その他、組入投資信託証券においては、ルクセンブルクの年次税（年率0.01%）などの諸費用がかかります。 ※その他の費用・手数料の合計額は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。
------------	--

◆ファンドの費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

委託会社、その他の関係法人の概要

委託会社	アムンディ・ジャパン株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第350号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
受託会社	株式会社りそな銀行(再信託受託会社: 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)
ファンドに関する照会先	委託会社の名称: アムンディ・ジャパン株式会社 お客様サポートライン 0120-202-900(フリーダイヤル) 受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで ホームページアドレス: https://www.amundi.co.jp/

販売会社一覧（業態別・五十音順）

金融商品取引業者等		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人投資信託協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○			○	○
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2938号	○				
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○				○
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第24号	○				
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○		○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○		○	○	○
株式会社関西みらい銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第7号	○			○	
株式会社群馬銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第46号	○			○	
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第593号	○			○	
株式会社千葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第39号	○			○	
株式会社八十二銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第49号	○			○	
株式会社北海道銀行	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第1号	○			○	
株式会社りそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第3号	○			○	